



兵協連だより

HYOGO CONSUMERS' CO-OPERATIVE UNION

2022 **1**



兵庫 JCC では年に一度、協同組合間の理解と交流を深めようと2008年から「協同組合研究・交流会」を開催しています。各協同組合が持ち回りで担当し、今年度は「兵庫県漁業協同組合連合会」主催で開催。11月30日、JF 坊勢の漁業見学船「第8ふじなみ」に乗船し、JF 坊勢が営む様々な漁業種を見学しながら兵庫県内漁業や豊かな海を守る活動について学習しました。(関連ページ P.15)





兵庫県生活協同組合連合会
会長理事

岩山 利久

(いわやま・としひさ)

前向きにチャレンジ

2022年、明けましておめでとうございます。新しい年を迎え皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

現在も続いている新型コロナウイルス感染症の流行は、働く場や生活の場に色んな問題を顕在化させ、その影響の大きさが浮き彫りになってきており、対策は待ったなしの状態と言っても過言ではありません。また、直近では新たな変異株であるオミクロン株が世界で急拡大しており、コロナ感染症対策も引き続きの重要な課題です。このように多くの不安と心配を抱えてスタートする新年ですが、「今こそ助け合いの組織である協同組合の出番」と前向きに捉えることが重要だと考えます。そのためにも、兵庫県下の協同組合が力を結集することが不可欠な一年です。今年の干支は「寅」です。寅には「決断力と才知」の象徴としての意味があるそうです。適切な状況判断で勇猛果敢にチャレンジする、寅のような動きが求められる一年になるかもしれません。

。また、干支が「寅」の年に何があつたかを調べてみました。1986年はバブル経済の始まりの年と言われています。1998年は明石海峡大橋が開通した年で、橋の開通は淡路島や四国の経済発展に寄与しています。2010年は小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還し、持ち帰った研究材料の分析がスタートしました。このように寅年は、「勇猛果敢に何かを始める」と判断したことを躊躇せず前向きにチャレンジする、生協の事業と活動に関わる私たちが忘れてはならないことだと思えます。

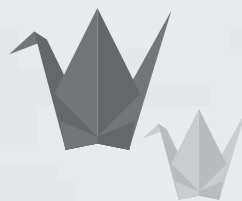
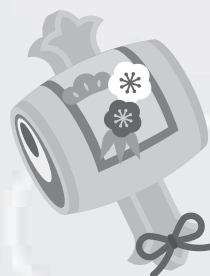
私たちは様々な自然災害、特に多くの命を失った阪神淡路大震災の危機を協同組合の力を結集して乗り越えてきました。コロナも間違いなく災害です。2022年、前向きにチャレンジすることを大切にしてコロナという災害を乗り越え、兵庫県下の協同組合が新たな一歩を踏み出せる一年にしましょう。

CONTENTS

- 2. 想点
- 3. 会員生協・団体：今年の抱負
- 13. 会員生協・団体：今年の抱負／共済生協部会 開催報告
- 14. 医療生協部会／大学生協部会 開催報告
- 15. 兵庫JCC「協同組合研究・交流会」開催報告
- 16. 保健・医療・福祉研究会／災害対策委員会 開催報告

- 17. 労働安全衛生研修 ご案内／兵協連 第4回理事会報告
- 18. 協同組合のかけ橋
- 19. 兵庫県のページ／ヨッシーの窓
- 20. 2021年度 ひょうご消費者セミナー ご案内／
県連行事予定／編集後記

2022年 今年の抱負



若い人が希望を持てる未来に

あけましておめでとうございます。

この2年間、未知のウイルスがもたらした厄災に世界中が同時に巻き込まれました。予断は許さない状況ですが、ワクチンの普及や治療薬の開発により、ようやく光が見えてきたように思います。

新型コロナウイルスは、私たちの社会の構造的矛盾を顕在化させたといわれます。以前から日本は若い人が未来に希望を抱きにくい社会、だといわれてきました。コロナ禍により経済的な苦境に立たされる若い人が増えてきました。

コープこうべは昨秋、高校生向け給付型奨学金を創設しました。募金を通じて組合員が参画する「助け合い」のしくみとして発展させたいと考えています。

さらに、お金を渡して終わりではなく、生協とつながることで豊かな体験をしてもらえよう、奨学生にさまざまな情報を提供していきます。人生の扉を開く鍵は、どこにあるかわかりません。彼ら彼女らには体験の一つひとつが自信につながり、その人らしさが磨かれていくでしょう。

民法が改正され、今年4月から18歳で成人となります。人口構成のうえでは少数かもしれませんが、若い人たちの言葉に真摯に耳を傾け、ともに心豊かな未来をつくっていきたいと思います。



生活協同組合コープこうべ
常務理事

中川 寿子

(なかがわ・ひさこ)

ポストコロナ社会へむけ、「ローカルSDGs」づくりを

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大は、残念ながら終息には至らず、変異株の登場など、まだまだ気を許すことのできない状況です。私たちの生活・行動様式も大きく変化し、生協事業、組合員活動の中でもオンライン会議やSNSなどコミュニケーションツールの活用はすっかり定着しました。ポストコロナ社会に向け、こうした変化の積み重ねが続くのでしよう。

そうした中、今年6月の総会に提案予定の生活クラブ生協連合会・第7次中期計画案では、生活クラブ生協が各地で進めてきたFEC自給ネットワークづくりの実践を「ローカルSDGsづくり」と位置づけ、重要テーマとして取り組むことを掲げる予定です。今年、当生協でも2023年度からの「第3次中期計画」の策定を進めるタイミングとなります。私たちのこれまでの実践を土台に、「循環と共生」を地域の中につくり出す「ローカルSDGs」づくりを構想していきたいと考えています。この兵庫の地で、共に生協運動をすすめる皆様の多様な実践や先進的な取り組みに学びながら、ポストコロナ社会につながる議論にしていきたいと思っておりますので、どうぞ、よろしく願います。



生活クラブ生活協同組合
都市生活
専務理事

角田 学

(すみだ・まなぶ)



生活協同組合
コープ自然派兵庫
専務理事

横川 誠也
(よこがわ・せいや)

持続可能な社会に向けて

新型コロナウイルス感染症の終息を願い、謹んで新年のお喜びを申し上げます。
昨年6月より、専務理事に就任致しました。今後とも、宜しくお願い致します。

2021年は、事業と活動の連携を課題とし、コープ自然派兵庫のビジョンに沿った理事・組合員活動を年100回程度実施し、組合員と共に学び行動してきました。特に、貧困、格差、温暖化・気候危機への取り組みは緊急性の高い問題と考えています。私たちができる事を考え、余剰有機農産物を、地域の困窮者支援施設に向けてフードバンク関西と連携し供給、西日本アグロエコロジー協会(旧：兵庫県有機農業研究会)の事務局対応、オーガニック給食化に向けた行政(宝塚市、明石市)への働きかけに取り組みました。少しずつですが、地域との連携が進んでいると実感しています。今後、有機農産物の生産・消費拡大を軸に様々な課題にチャレンジしていきます。2022年のトピックとしては、コープ自然派グループで社会福祉法人設立を目指し、地域で有機農産物の生産、障がい者支援を目的とした農福連携事業に着手する予定です。また、神戸元町商店街の中に活動拠点をオープンし、活動の中で得た情報を社会へのメッセージとして発信していきたいと思えます。子どもたちの未来のために、持続可能な社会に向けて、組合員と共に行動していきます。本年も、宜しくお願い致します。



生活協同組合連合会
コープ自然派事業連合
理事長

神野 利夫
(じんの・としお)

国産オーガニックを広げる一年に

あけましておめでとうございます。

2021年は一昨年に続き、コロナ禍に社会が翻弄された一年となりました。社会全体が疲弊し、弱い立場に置かれた人に本来手を差し伸べるべき行政は機能不全になったと感じます。世界的インフレが懸念される中、格差・貧困対策はますます重要になると予想されます。コープ自然派は、子ども笑顔基金を創設し組合員と一緒に問題に取り組み始めました。微力ではありますが、問題を共有し考え行動することが地域社会に存在する協同組合の義務と思っております。

昨年、政府が発表した「みどりの食料システム戦略」にある、有機農業の取組面積割合を25%に拡大するという方針は、コープ自然派が掲げる「国産オーガニックを広げる」という理念実現への大きな追い風となります。昨年から行政と連携し学校給食への地産オーガニック食材導入の取り組みを始めました。地域の農業・経済・環境、子どもの健康と食育に積極的に貢献したいと思っております。

コープ自然派は、持続可能な社会の実現に向けて、2022年はさらに「国産オーガニックを広げる」をテーマに地域社会に対して取り組みを進めていく考えです。ユネスコ無形文化遺産にも登録された協同組合の思想を基に、「様々な社会的な問題への創意工夫あふれる解決策」を編み出すことへの努力をこれからも続けていきます。ともに進みましょう。



西宮市職員生活協同組合
事務局長

山田 博貴
(やまだ・ひろたか)

新年の抱負

新年あけましておめでとうございます。

当生協は、兵庫県下唯一の市役所生協として、組合員である西宮市職員への福利厚生のため、サービスの提供に努めています。

当生協におきましても、一昨年に続き、昨年も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けながら、厳しい運営に努めてまいりました。特に大きな影響を受けたのが市役所本庁舎内の食堂・喫茶で、椅子の間引きや透明パーティションの設置等対策を行いました。令和2年度決算につきましては、マスクやハンドソープ、アルコール消毒液等の商品の確保に努め、組合員へあっせんを行ったことや、社会現象となったコミックの売り上げが大きく伸びたこと等で、前年並みの利益を確保することができました。令和3年度につきましては、昨年のコロナ対策商品の特需がひと段落したことや、例年好評であった、さくらんぼ・さんま等が不作・不漁により、あっせんできなかつたこと等から、昨年同時期より供給高は減となっております。本年も様々な事業に取り組みめるよう、市の関係部局や互助会との連携をさらに深め、存在意義を高めていく努力を行ってまいりますので、ご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

大学生協の再生に向けて



神戸大学生協同組合
専務理事

坂本 安弘

(さかもと・やすひろ)

新年明けましておめでとうございます。

昨年の兵協連だよりでは、Afterコロナと記載しました。ただまったくAfterの気配はなく、Withコロナの時代だと痛感しました。その意味ではWithコロナ2年目を如何に乗り切り、組合員のキャンパスライフを支援するのか。大学はこの2年で大きな変化を遂げました。これはオンライン授業に限ったことではなく、学修スタイルからライフスタイルまでの全てに言えることです。

大学生はいち早くこの変化を敏感に感じ取り、スマートに順応しているように見受けられます。

一方、大学生協は取り残された感があり、大きな損失を計上することとなりました。

今年の干支は壬寅。「陽気を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれる年になるそうです。

まさしく、このコロナ禍に於ける大学生協の再生にふさわしい年ではないかと考えます。大学生協の使命をいま一度見つめ直し、組合員のキャンパスライフを支える所存であります。

Withコロナ時代の新しい大学生協のスタイルを確立し、これかもキャンパスコミュニケーションの一員であり続ける。職員一丸となり尽力して参ります。本年も何卒ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

2022年度へ向けて



関西学院大学生協同組合/
大手前大学生協同組合
専務理事

池上 正寿

(いけがみ・まさひさ)

新年あけましておめでとうございます。旧年中はひとかたならぬ高配にあずかりまして誠にありがとうございました。

さて、昨年の年初めには、コロナ禍により未曾有の経営状況の悪化を経験した2020年を振り返り、2021年はV字回復する年と位置づけていました。しかし、学生の登校率はコロナ前と比べて、3分の1程度までしか回復せず、目指した目標には届かずじまいで、厳しい状態が続きました。生協の経営環境にもまして心配なのは、この2年間オンライン授業の増加や課外活動の制限で、期待していた学生生活を送ることができていない学生組合員が、疲弊している状況です。

大学は2022年度の授業方針として、対面を基本とすることを表明していますので、今年こそキャンパスに活気が戻ってくることを切に希望しています。生協としても、学生が元気にキャンパスライフを送る応援ができるよう、春からの新年度に向けて準備をすすめてまいりたいと思っています。

本年も皆様からご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

変化に対応できる大学生協に



神戸市外国語大学
消費生活協同組合
専務理事

中尾 太樹

(なかお・たいき)

新年あけましておめでとうございます。

昨年は引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年でしたが、ようやく、少しずつ落ち着きを取り戻しつつあります。

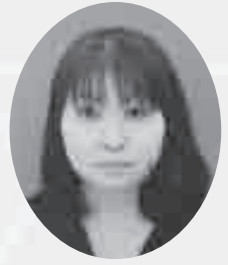
ただ、大学生協の置かれた大学内という環境下では、オンライン授業と、対面授業が併用されるかたちでの講義が続き、学内の学生組合員の人口数は、半分以下に減少したままとなっています。

このことは、大学生協に大きな経営的な試練を与えることとなり、事業構造の再構築を迫られています。将来に向けての準備を迫られる一方、目先の運営に足を取られる日々が続いております。

そのような中でも、学生委員を中心に、新しい組合員活動の形が立ち上がりつつあります。オンラインでの交流や、動画配信を利用した、オンデマンド型の情報発信です。柔軟に対応する学生組合員に勇気づけられる日々です。

また、神戸市外国語大学では、コロナ禍で困窮する学生に向けて、一昨年、昨年と大学生協の電子マネーシステムを活用し対象学生の方に電子マネーをチャージする学生支援を、外大生協と一緒に進めております。受け取った学生組合員は、学内での食事や、教科書などの物品購入に電子マネーを活用することができるようです。

これからも、外大生協も負けずに、変化に柔軟に対応して少しでも前に、事業を進めていきたいと考えております。引き続き、皆様のご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



甲南大学生協同組合
専務理事

内田 真紀子
(うちだ・まきこ)

2022年を迎えるにあたって

新年明けましておめでとうございます。

一昨年からの新型コロナウイルスも昨年から少し落ち着いた状況に見せてまいりましたが、まだ予断を許さない状況にあります。その中でも状況に応じて、キャンパスには少しずつ学生が戻ってきています。

甲南大学生協では、感染症対策を講じながらも、少しでも大学に来る楽しさを実感していただきたい、大学に来ることに対しての期待に応えたいとの考えから、組合員参加の企画を多く行ってまいりました。新しい生活様式の中で組合員が求めるものを模索しながら、今できることを柔軟に進めてきた一年でした。

様々な苦難がある中でも、学生を中心とした新学期活動が年々盛り上がっています。自分たちが感じた不安を新入生や保護者が希望に変えられるよう、前向きに準備をしている姿に、日々励まされています。

報道等でも大学生の心のケアや、貧困問題などが取り上げられていますが、大学自体も大きく変革をしようとしています。生協としましても、今の組合員の声をしっかりととらえることで、新しい事業展開の開始も含め、大学と共に前に前にと歩みを進めていく所存でございます。

本年もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



兵庫県立大学生協同組合
専務理事

末松 泰信
(すえまつ・やすのぶ)

2022年を迎えるにあたって

新年明けましておめでとうございます。

大学生協にて長らく仕事をしておりますが、ほぼ2年にわたる感染症下で、これほどまでに学生を中心に多くの組合員が心身ともに疲弊し限界にきていることは経験したことがあります。

この環境下であっても、創意工夫をしながらサービスタ提供を継続しているものの、おおよそ利用が半減している実情を踏まえると、組合員との対面によるつながりが減り、厳しい経営状況に加え資金も大幅に減少しています。

これら失ったものは長い時間をかけて元に戻さなくてはなりません。一方で得たものもあって、あらためてですが、生協間連携の「あたたかさ」「やさしさ」です。

協同組合関係の皆様から、困窮学生への生活物資支援や食材の無償提供をいただくなど、多岐にわたるご支援を頂きました。その中でも、特に兵庫県産のお米や魚だけを使った食事の提供（井にして5,000食分）はたいへん好評で、多くのお腹と心を満たすことができました。そのことよりも、「地域愛」「地産地消の大切さ」に気づいたとの声が多く、上から目線ではない、同じ土俵で同じ立場になって寄り添える、そんな県のコミュニティとなる役割を果たして、復興の一翼を担いたい、と考えています。

どうか、引き続き、ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



神戸薬科大学学生協同組合
専務理事

内田 真紀子
(うちだ・まきこ)

新年の抱負

新年明けましておめでとうございます。

一昨年からの新型コロナウイルスの影響は昨年も事業に大きな影響がありました。神戸薬科大学では、実習を行い、国家試験受験につなげていく義務があるため、大学との協力のもと、店舗運営時にはより強力な予防対策を講じて対応をまいりました。

その中でも少しずつ登校が増えてきた学生組合員の日々の楽しさを作ることが課題となり、兵庫JCC様からのご支援は大変有難く、学生組合員の大きな癒しとなりました。本当に有難うございました。

大学当局からも一昨年に引き続き、ご利用の増加や企画の合同開催など多くのご協力をいただきました。

事業としてはまだまだ厳しいですが、学生・教職員組合員と生協職員が顔の見える関係として、個別にご意見を聞くことができるのが薬大生協の良さでもあります。

組合員一人一人の声をとらえ、必要なことへの対応や期待に応えることで、「自分の大学に生協があつて良かった」と感じていただけるよう努力を継続する所存でございます。

本年もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新年の抱負



神戸親和女子大学
生活協同組合
専務理事

坂本 安弘
(さかもと・やすひろ)

新年明けましておめでとうございます。

昨年はなかなか厳しい年でありました。10月以降は対面授業への切り替えが進み、キャンパスに活気が戻って参りました。組合員の笑顔を見ますと、私もうれしくなり元気を頂いたように感じます。コロナ前は、これが当たり前の日常だったと感慨深いものがあります。そのような意味では、いろいろと考えさせられた旧年でありました。ただ、本格的な回復とまでには至らず、本年に持ち越しとなりました。本年はより多くの組合員がキャンパスに戻り、穏やかなキャンパスライフを過ごせることを切に望んでいます。そして来店頂いた際には、負けない位の笑顔でお迎えしたいと思います。

小さな生協は、組合員とスタッフの距離がたいへん近いです。コロナ禍で少し遠くなりましたが、コロナ前以上に近づくように努力します。

期待以上の満足を。ピンチをチャンスに。出来ることはたくさんあると考え、組合員のキャンパスライフの向上に努めて参ります。

本年も皆様の力添えをよろしく願っています。

2022年を迎えて



園田学園女子大学
生活協同組合
専務理事

大西 範和
(おおにし・のりかず)

新年明けましておめでとうございます。

2020年度に続き、昨年も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。

4月の新学期スタートは少し活気が戻ったキャンパスでしたが、下旬から緊急事態宣言となり、またオンライン授業へ移行することになりました。以降もそれは繰り返され、このコロナ禍において、学生組合員は対面授業がなければ大学へ来ない、対面授業があっても終わればすぐに下校する、なるべくお弁当を持参する、などそんなコロナスタイルに慣れてしまいい生協を利用してもらう場面が減少していましたが、そんな中、思うようにいかない状況ではありましたが、コロナ対策を考えながら、店舗活動を行いました。

また、経営状況も大きく悪化しており、この危機的状況に大学当局からも様々な支援をいただきました。

2022年も収まることはないであろうコロナの影響を想定しながら、臨機応変に対応し、新たな私たちで学生組合員のサポートができるよう、そして経営再建に向けて進めていく1年にしたいと思えます。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新年を迎えて



甲南女子大学生生活協同組合
専務理事

金保 吉郎
(かなほ・よしろう)

新年、明けましておめでとうございます。

2021年5月より甲南女子大学生協の専務理事に就任いたしました。よろしく願っています。

一昨年から続く新型コロナウイルス感染症により昨年もキャンパスに学生は戻りきらず、大学生協の事業は厳しい状況が続きました。しかし、そのような状況の中で大学生協がどのような役割を担っていくかを考えさせられる1年でした。

このような時期だからこそ学生が「楽しくなる」「明るくなる」企画を行おうということで、食堂では「日替わりオムライス」や「ケーキバイキング」、購買では「焼き立てパンの日」などコロナ禍以前に人気のあった企画を復活させ、大学生活を楽しく過ごしていただくことに注力しました。学生も楽しんでくれていたようでしたので、生協スタッフ一同もうれしくなりました。

キャンパスの学生は多くても6〜7割程度の状況です。そのような状況でも「生協があつてよかった」と思えるような活動を重ねていきます。

たいへんな時期に専務交代となりましたが、しっかり前を向いて組合員、大学に必要とされる生協となるように取り組んでまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



神戸市立工業高等専門学校
生活協同組合
専務理事

寺田 雅裕

(てらだ・まさひろ)

新年を迎えるにあたって

明けましておめでとうございます。旧年は大変お世話になりました。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、一昨年から猛威を振るっていた新型コロナウイルスの感染状況が一旦落ち着きを見せ始め、世間は日常を取り戻しつつあります。まだまだ気は抜けません、変異株の影響が限定的であることを祈りつつ、このまま終息に向かうことを願っています。

当組合の近況ですが、職域である神戸高専が対面授業を再開したことに伴い、ほぼ通常の体制で運営しております。店舗利用の面では、コロナ禍前とは行きませんが、概ね8〜9割程度、組合員のご利用が戻っています。ただ、コスト増による剰余の減少など、事業環境の悪化により、経営としては年々難しい状況になりつつあります。

厳しい状況ではありますが、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた本校の学生に寄り添っていかれるよう、勉強面でも生活面でもサポートを続けていければと考えております。そのために職員と力を合わせて尽力して参りたいと思いますので、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



大学生協事業連合(関西北陸地区)
常務理事(地区業務統括)

野尻 郁智

(のじり・ふみとも)

新年を迎え、大学生協再生の具体化を 会員生協の皆様と一緒に取り組みます

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

兵庫県生活協同組合連合会の会員生協の皆様におかれましては、弊会の諸活動にご協力いただきましてありがとうございます。また大学生支援活動においては多大なご尽力をいただきましたことにあらためて御礼申し上げます。

令和3年も新型コロナウイルス感染症の影響が強くなり、私たち大学生協にとっては厳しい経営が続いています。withコロナのもとで大学の講義形態の多様化など、我々を取り巻く環境はますます変化しております。この変化は元に戻ることはなく、新しい環境に対応できる組織でなければならぬと認識しています。

私たち大学生協は、昨年12月に全国大学生生活協同組合連合会(大学生協連)の総会において、「大学生協「再生」基本方針(共済事業譲渡を含む)決定の件」の会員生協の賛成を受けて議決をしました。大学生協「再生」の最大の目的は、2つの再生(「会員経営の「再生」、大学生協事業の「再生」)を通じて、「組合員のくらしの向上」を実現することです。新年を迎え、気持ちも新たに再生の具体化を皆様のお力添えをいただき、進めていきたいと考えております。皆様にとりまして、この新しい年がより豊かな年でありますよう心から祈念いたしまして、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。



神戸医療生活協同組合
理事長

道上 哲也

(みちがみ・てつや)

2022年を迎えて

新年おめでとうございます。

昨年は、医療介護活動の多くが感染症対策に追われ、事業所の活動が様変わりしました。地域では、自粛による孤立がおこらないように、つながりを大切にしながら、健康づくりなどの地域活動を継続しました。創立60周年の記念行事は残念ながら開催できませんでしたが、組合員・職員の努力で、記念誌を作成し、歴史をどう引き継ぐか、何を受け継ぐのかを考える機会となりました。

コロナへの対応は、科学をよりどころにした正しい知識と行動が必要です。そして、感染症対策は自己責任でなく国の責任で医療・社会保障を充実させることが必要です。

わたしたちの活動範囲はますます広がっています。環境問題へのとりくみが世界的な流れになっています。憲法・平和を守る運動が重要です。そして、一人ひとりが多様な生き方を認め合い、互いを尊重する社会を実現していくことも大切です。「事業と運動」を継続していくため経営改善も重要課題です。今年も健康に留意しながら、ともに「事業と運動」をすすめていきましょう。

本年が皆様にとって充実した、よい年であることを祈念し、新年のご挨拶とします。今年もよろしくお祈りいたします。

今年も元気に活動します



尼崎医療生活協同組合
理事長

大澤 芳清

(おおさわ・よしきよ)

新年あけましておめでとうございます。

昨年はコロナ感染が広がり、幾度も身近な繋がりが閉ざされました。感染していなくても不安と孤独感が高まり、私たち人間は社会との繋がりの中で生きていくことを実感した1年でした。コロナ禍で仕事や住居を失い、この年末年始をどのように過ごすかと思われた方も多いのではないのでしょうか。今こそ私たち協同組合の力が必要とされています。地域の住民の孤独や不安に乗じた金儲けではなく、その方が本来に必要な事業、取り組みを行えるのはまさに私たちの組織です。尼崎医療生協は、今年も受療権を守り権利としての社会保障を実現する活動を継続していきます。また、私たちの平和にそして健康に生きる権利を保証する日本国憲法を守る活動も引き続き行っていきます。また、ともに働く職場の仲間が、誰のために何のために事業をおこなっているかを見つめ、生協職員として成長ができる職場作りを行っていきます。

まだまだ取り組みが不十分で、皆様のご経験などお教えいただけたいと思います。本年もご指導の程よろしく願っています。

正解のない時代を迎えて



阪神医療生活協同組合
専務理事

蓮見 克也

(はすみ・かつや)

今年も無事に皆様と新年を迎えられた事に感謝致します。

昨年度は新型コロナウイルスにより、オリンピックは無観客で行われ、規模こそ違いますが、当法人の50周年記念も中止となりました。

コロナ禍の中で令和元年の国税庁『民間給与実態統計調査』によると1年を通じて勤務した給与所得者の1人当たりの平均給与は436万円。男女別にみると、男性540万円、女性296万円となり、先進国の中で日本だけが給与が下がっているという実態があります。

このような状況では、益々豊かさとは何かというものが、問われていく年になりそうです。

地域に生活協同組合があると、豊かに過ごせると言われる組織になる事が、我々の目標である事を踏まえながら、働く人も豊かな気持ちで働ける組織が求められます。

そのために、正解の先に豊かさがあるのではなく、対話の中に豊かさを見出せる社会を目指して、地域と職員との対話を大切にしながら、今年も邁進していきます。

次世代へバトンをつないでいく



宝塚医療生活協同組合
理事長

砂盛 光偉

(すなもり・みつひ)

新年あけましておめでとうございます。2021年も2020年に引き続き、コロナ感染対策に追われた1年となりました。コロナワクチン接種が実施されましたが、診療所では予約電話が殺到し、日常業務がままならない状況が続きました。感染症のパンデミックによる人々のパニック状態を目の当たりにし、収束を願うばかりです。

2021年の経営は、医療事業での大きな利益増により、黒字基調となりました。しかし、介護事業は赤字状態から脱却できず、経年的な課題となっており、2022年以後、抜本的な改革が必要となっています。

後継者問題も大きな課題となっています。管理者の定年が今後5年間で多数発生し、幹部養成が急がれます。教育・研修に力を注ぎ、ノウハウも含め継承していかなければなりません。また、支部組合員の高齢化も顕著で、終活を始める組合員が増加し、出資金の減資もそれにあわせて増えてきています。現在、法人・支部と協同して、支部活動を担える人材を探し続けていますが、さらに地域に向き、特に定年後の年齢層をターゲットに探していく予定です。

2022年は、宝塚医療生活協同組合50周年の節目の年となります。この機会を若い世代へバトンをつなぐきっかけにしていきたいと考えています。



姫路医療生活協同組合
専務理事

黒岩 勝博
(くろいわ・かつひろ)

理念「その人らしく、気持ちよく生きる」 の実現をめざして

新年明けましておめでとうございます。

昨年コロナ禍の中、様々な制約をかかえながら事業と活動を推進しました。法人の新型コロナウイルス感染症対策本部を軸に、事業所からクラスターを出さないことを重点に感染対策を強化し、サービス提供を確実に継続することができました。組合員活動は、緊急事態宣言時の自粛はありましたが、つながりづくりと社会参加を大切に、創意工夫をおこなってきました。

今年、4月に福祉介護センターあほしの新築移転、5月に福祉用具レンタルあほしの新規開設を実現します。また、2023年4月には看護小規模多機能みくにの新規開設、2023年12月には共立病院建て替えリニューアルオープン等を指す年となります。まさに姫路医療生協の総合力と連携が問われます。

今後も、姫路市の人口動態の変化と姫路市第8期介護保険事業計画等に対応し、計画的に事業展開をはかり、「介護が必要になっても住み慣れた自宅でくらし続けたい」のニーズにお応えしていきたいと考えています。法人理念「その人らしく、気持ちよく生きる」ことができるサービス提供とまちづくりを推進いたします。

本年もよろしくお願いたします。



ろっこう医療生活協同組合
理事長

小西 達也
(こにし・たつや)

百の頂に百の喜びあり

昨年、日本百名山を完登しました。田中陽希のグレートトラバースに触発されて挑戦したのです。登り終えて、深田久弥の「百の頂に百の喜びあり」が深い言葉だと実感しました。

町医者は、患者さんが、病死した、寝たきりになった等々、常にストレスにさらされ、嘆息と反省の日々です。休日に、登山道を無心で歩き、山頂で雄大な景色を眺めると、自然が自分の小ささと寛容の大切さを教えてくれます。

コロナ最初期には全国各地、現場で働く職員に対しての誹謗中傷、差別がおこりました。当生協でも同様にひどい中傷を受け、ある職員は、「人間の本质を見た」と記載しました。心のケアやワークライフバランスの大切さを痛感しました。弱音や困り事を相談しあえる職場でありたいものです。又、安全の職場を前提として、コロナ禍の厳しい経営環境の中で、いかに効率よく能力を発揮してもらえるか、どこに喜びを持てるか、学びを交流し職場として成長し続けなければなりません。

組合員さん百人に百の声があり、組織担当職員は、コロナ感染対策と声のはざままで悩んできました。事業、組合員活動と職員の分業が進んだ昨今ですが、医療福祉生協の原点に回歸し、職員も「つながって」組合員活動に「参加」し、百の喜びを実現します。末筆ながら昨年、理事長を拝命しました。生協の輪がますます拡がりますよう、ともに歩みましょう。宜しくお願申し上げます。



たじま医療生活協同組合
専務理事

松本 幹雄
(まつもと・みきお)

魅力と誇りに満ちたまちづくり

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の流行が始まってから早2年。次々に新たな変異株が出現し、いまだに収束のめどは立っていません。しかし、組合員の感染症予防意識は高まり、対策をしっかり講じる中で班会をはじめ組合員活動は徐々に活気を取り戻してきています。

昨年一番の明るいニュースは、ろっぼう診療所の新所長就任です。2020年4月以降の所長が決まらないでいた中、兵庫民医連の支援の下、神戸健康共和会様の格別のご理解により合田医師を所長として1年半にわたり派遣いただきました。改めて深く感謝を申し上げます。和田所長を中心とした新たな診療体制で経営の安定化を図りながら、地域を支える医療機関として役割を果たしてまいります。

「あたたかなたすけあい」で、すこやかに人間らしく生きる」をまちづくりの基本理念とする後期基本計画を策定しました。2015年に策定した基本構想に基づき、2021年度〜2025年度を計画年度としています。但馬に住むすべての人たちが、自分たちのまちを健康で文化的かつ安全で快適な生活を営むことができる魅力と誇りに満ちたまちにする取り組みを進めてまいります。

今年もよろしくお願いたします。

心があたたかくなる年に



ひまわり医療生活協同組合
副理事長

三橋 徹

(みつはし・とおる)

新年を迎え、貴生協の活動にあらためて敬意を表します。

年末年始になると、学生の頃横浜のことぶき町で寿日雇労働者組合が取り組んだ越冬闘争に参加していたことを思い出します。日雇いの仕事がなくなる年末年始に公園のテントやプレハブに泊まって生活や労働・医療相談の支援に加わりました。

人恋しくなっただけで度々相談に来られる方もおられました。そこにいて解放されていたのは自分の方でした。相談者を受け入れる中で、そのままの自分も受け入れられると自然に信じられる場でした。問題を抱える人は多かったです。人の心があたたかかられるように参加していました。

何が良かったのかと考えることがあります。ともすればダメ出しをして自分やお互いを評価することから離れ、自分をいただき、協力し合っただけから改善していく。

こんな風に働いて生協活動ができれば、みんなが幸せになるのではないのでしょうか。今年も歩んでいきます。

新年おめでとうございます



神戸市民生活協同組合
専務理事

菅原 隆喜

(すがはら・りゅうき)

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、十五年ほど前のこと、米国アップル社の創業者スティーブ・ジョブズ氏は「電話を再発明する」と言っていて、「電話」「インターネット」「カメラ」そして「音楽プレーヤー」をひとつにまとめ、キーパッドを廃した新しい電話「iPhone」を発表し、世界に衝撃を与えました。彼は、こうしたニーズが顧客に潜在していることに気づいて、まったく新しい概念を携帯電話に持ち込んだのです。まさしく、0から1を創り出したのだと思います。この時の彼のプレゼンは今や伝説になっているほどです。

0から1を創り出す人は、何も起業家に限ったことではないはず。普段の仕事をしていても、日常生活を過ごすうえでも、こうした場面や機会には誰にでもあると思います。共済や保険の分野でも、ある課題を解決するためには、新しい発想で施策を打ち出すということも大切だと思っております。まったく何もないところから物事を考え出して、実現にまで結びつけることは、並大抵のことではできません。アイデアを考え出す能力やイノベーションを起こす能力が必要で、新たな発想を実現にこぎつけるだけの行動力や人脈も必要です。

少子高齢化、人口減少社会が到来している今、そしてアフターコロナを見据えた今、新たな事業の展開がますます望まれるところです。その期待に応えてくれる若い世代にも一緒に頑張ってもらいたいことを今年一年願いつつ、見守っていききたいと思います。

より良い変化を求め



尼崎市民共済
生活協同組合
理事長

河本 博志

(かわもと・ひろし)

新年あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスの影響が及ぶ中、東京オリンピックが感染防止に創意工夫を凝らすことにより開催され、私たちに大きな感動や希望等を与えてくれました。

また、ワクチン接種も効を奏し、2年間に及ぶ行動規制等も少し緩和され、生活に少しずつ明るさが取り戻されてきました。しかし、世界的には、まだまだ変異株による感染が収まらない状況が続いています。一刻も早い終息が望まれるところです。

当然のことですが、私たちの生活がより良い状況へと向かうためには、常に時代や環境等に対応した変化が求められています。

車や食品等の消費財においても、長期にわたり支持されているものは、常に大なり小なりの改善がなされています。組織や制度しかり、身の回りにある全てのものが、メンテナンスや改善等をせず、放置していると劣化してしまいます。

この1年、尼崎市民共済もその本質を変えることなく、より良い方向へ変化を進めていく必要があると思っていますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



姫路市民共済生活協同組合
理事長

中川 勝正

(なかがわ・かつまさ)

「寅年」に向けて！

新年あけましておめでとうございます。

県協連の皆様におかれましては、ご家族ともども、新たな年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

今年「寅年」、雄叫びをあげてスタート、師走まで力強く歩んでいきたいところではありますが、

しかし、新型コロナウイルス感染の拡大に直面してから約2年が経過しましたが、今なお、世界的には感染の抑制には至らず、多発する災害、温暖化とあわせて「健康と安全」の大切さを実感し、各種の安全対策を実践する毎日が続いています。

当組合でも、社会活動の制限とともに、事業環境にも各種の影響をうけるなか、職員が知恵を出し合い、少しでも組合員とつながれるような活動にも取り組み、将来への継続と発展の一助にと考えています。

干支の寅から「虎に翼」・「虎の巻」・「虎の子」を借りて、職員に蔓延していた「なんとなく不安」・「負の心理バイアス」を払拭し、今年二年、「継続と発展」を合言葉に事業を進めてまいります。

今年も、皆様とご家族が健康であること、そして、実り多き一年になりますことを祈念して、寅年（年頭）の抱負とさせていただきます。



西宮市民共済生活協同組合
常務理事兼事務局長

坂本 健治

(さかもと・けんじ)

新型コロナウイルスの変異

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルスは自分たちが生き延びるため、人間が開発したワクチンに適応すべく、短期間でどんどん変異し、生存領域を広げようとしています。

そのスピードたるやDXの推進を掲げて様々な試みを進めている私たちは足元にも及んでいないのかもしれない。

人間は自らを変異せず、太古より地球に蓄積された地下資源を大量消費し、地球環境という自分たちの周りを変えてしまいました。

かくいう私も地下資源の消費による便利な生活を享受してもらっている一人ですが、コロナ禍でリモートワークやウェブ会議を取り入れ、非対面の日常を経験する中、感じることは対面で人と人とが触れ合うことの大切さです。

今年も新型コロナウイルスへの対応は続くものと思われませんが、私も西宮市民共済生活協同組合は組合員様の利便性の向上を図るため、時代の変化に応じた決済方法などを取り入れつつ、対面で組合員様の気持ちに寄り添いながら、それぞれの生活に応じた保険の提案を大事にしていきたいと思えます。



兵庫労働共済生活協同組合
専務理事

道上 昌一

(みちうえ・しょういち)

「みんながたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の実現をめざして

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、ご家族ともども新たな年を健やかに迎えのことと心よりお喜び申し上げます。昨年新型コロナウイルス感染症の感染拡大が第5波まで続き、多くの尊い命が奪われ、また現在も治療に専念されている方が多くいらっしゃいます。

ご逝去された皆様のご冥福と治療されている皆様の一日も早いご快復を心より祈念申し上げます。今も懸命に対応されているエッセンシャルワーカーの皆様へ感謝の意を表します。

コロナ禍にあった2021年は、私たち職員が心と力をひとつにして「協心戮力（きょうしんりくりよく）」を発揮し、社会的役割と責任を果たすため、共済金支払業務、事務・契約管理業務等の重要業務の継続を維持してまいりました。

2022年は推進体制の再編整備を土台として、オンライン推進の展開やWeb加入の拡充を行い組合員との多様なコミュニケーション手段を確立した事業推進活動を展開するとともに、お役立ちDXを加速させお役立ちと共創を体現する「人財」の育成を進めます。また、協同組合に求められる経済価値、環境価値と調和した、新しい時代を切り拓く次期中期経営政策を策定する所存です。

最後に、社会に参加する全ての彩りを肯定する「多様性」と社会の分断や孤立を否定する「包摂性」を両輪に、どのような時代を迎えようとも社会になくはならない存在であり続けるために、私たちが掲げる理念を実現していく決意であります。

今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

新年特集



近畿労働兵庫兵庫地区本部
本部長

清宮 豊

(せいみや・ゆたか)

働く仲間の為の助け合いの金融機関として
ろうきんの役割發揮してまいります

新年明けましておめでとうございます。
さて、新型コロナウイルス感染拡大は、ワクチン
接種が進んだ効果なのか、昨年十月以降、小康状
態が続いています。

一方で、新たな変異株「オミクロン株」による拡
大の恐れや、初期に接種した方々のワクチンの効果
が薄れてくる事などから、再び第六波が訪れる可能
性もあるとも言われています。

この様な不安定な状況下、近畿ろうきんは、まだ
まだ経済的に厳しさを感じている組合員が多くおら
れる事から、『生活応援運動2021』で取り組ん
でいる「総合的なお金の相談活動」を強化する為、
「リモート相談」や「WEB仮申込み」の促進も含
めた『生活応援キャンペーン』を展開しています。
また、より便利に利用頂きやすくする為、ローン商
品・iDeCoの電子契約化など、受付業務におけ
るペーパーレス・印鑑レス手続きなど、最適なサー
ビス提供も進めています。

この様に当金庫は第8次中期経営計画の二年目を
迎える今年においても、引き続きコロナ禍の中、新
しい生活様式にも対応しながら、「皆様からお預か
りした大切な預金を、必要としている組合員に低利
で融資する。」という、働く仲間の為の助け合いの金
融機関として、ろうきんの役割を發揮してまいります。
どうぞ引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い
申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

第2回 共済生協部会(拡大版) 研修会開催

11月18日 兵庫県民会館で共済生協部会研修会を開催しました。テーマは「生協にとってのマイカー共済」。2021年11月の制度改定でこくみん共済coopの代理店として各共済生協で取り扱うことができるようになった「マイカー共済」について、保険会社との内容の比較や制度上の特長、事故対応時の組合員の声の紹介を交えながらポイントを解説いただきました。共済の相互扶助の仕組みへの関心の高まりを感じる大変有意義な研修となりました。

また、新型コロナ関連対応を含めて置かれている状況、2021年度上期に改善・工夫した取り組みとその振り返りについて各生協ごとに発表しました。インターネット加入の強化やアポイント架電手法の変更、ポスティングやダイレクトメール送付など、コロナ禍で創意工夫した取り組みの情報共有と活発な質疑応答の時間をもちました。



講師：こくみん共済coop 兵庫推進本部事業推進部
組織法人課 課長 濱 由征 氏



第2回 医療生協部会(拡大版) 開催

「事業・経営活動のかなめ“人材育成力”アップ」の アイデア交流会

11月24日 医療生協アイデア交流会をオンラインで実施しました。会員生協の教育担当者も含め通常の部会の拡大版として開催し6生協計7人が参加。黒岩勝博座長（姫路医療生協専務理事）の進行で活発な質疑応答や意見交換を交えながら教育活動方針や教育計画を順に発表し共有しました。

新入職員基礎研修やオリエンテーション、新卒1年目フォローアップ研修、中途採用者研修など、階層別研修をコロナ禍の中、Web会議の利用促進で進めている状況など、互いの情報を交換しました。また、リーダー（管理者、職責者）の世代交代に伴う体系化した研修内容の必要性や、外部研修だけでなく内部研修（職員同士で学び合う、組合員と学び合う）の重要性などの課題についても話し合いました。



第2回 大学生協部会 開催

11月26日、県民会館にて大学生協部会を開催しました。

コロナ禍における各生協の業績、活動報告や、兵庫 JCC と大学生協の連携による学生への食支援（8大学生協・1高専生協で11/1～5実施）についての報告がありました。



その後、オブザーバーとして出席の兵庫県企画県民部県民生活局消費生活課の方から、「くらしのヤングクリエイター」活動認定者の推薦についての案内や、成年年齢引き下げ直前緊急オンラインセミナーへの参加者募集と運営時の司会者の要請があり、あらためて消費者教育の重要性を認識し、活発な意見交換の時間を持ちました。

2021年度 兵庫JCC

「協同組合研究・交流会」を開催

■日 時：2021年11月30日(火) 9：10～14：30

■参加者：生協・農協・漁協・森林組合から役職員29名

姫路妻鹿漁港から乗船。操縦席の3D ソナーや船内の説明を受けながら約40分で最初の漁場に到着し、定置網漁を見学しました。漁業者が漁をする様子を間近で見ながら、網の使い方や海中の地形や潮の流れから魚の通り道を予測して網の設置位置を決める説明などを受けました。目の前で次々と大量の魚が網から移される様子は迫力満点！その場で水揚げしたばかりのハマチを刺身にして試食しました。



次に生産時期である海苔と牡蠣の養殖漁場を見学しました。海苔は冬の間、海面に海苔網を張って養殖します。兵庫県下有数の収穫量を誇る坊勢島ならではの光景を視察し、帰りの船内では、「もぐり船」という専用の船で海苔を刈り取る様子を映像で学びました。



その後、水揚げされたばかりのボラからカラスミを作るため真子（卵巣）を取り出す工程を見学しました。冬の天日干し後、坊勢島特産高級珍味として販売されるとのことで、秋の一ヶ月に限られた短い漁期は活気にあふれていました。



参加者は、普段は見られない海の仕事を実際に見て、兵庫県がとても魚に恵まれた県であること、豊かな海をつくり育てる漁業の推進を通じて水産業の振興と発展を図ることの大切さを学びました。また、協同組合間の親睦が深まったことを実感できた一日でした。



「保健・医療・福祉研究会(拡大版)」講演・学習会開催

「保健・医療・福祉研究会」は、長寿社会が進むなか、医療・福祉のあり方や生協が果たすべき役割について考えていこうと1991年に設置、医療生協や購買生協の担当者で構成された研究会です。生協間の情報共有や研究テーマを決めて活動しています。今年度は、昨年に引き続き「地域包括ケアシステム」をテーマとしました。12月8日に開催された保健・医療・福祉研究会(拡大版)には7生協18人が参加し、日本医療福祉生活協同組合連合会 江本淳氏から「消費生活協同組合と地域包括ケア～事業と活動の持続可能性～」について、お話を伺いました。少子化による急速な人口減少と高齢者人口が最大になることで社会保障制度に大きな影響が出ると言われている「2040年問題」。地域包括ケアをどのように捉えて、事業と活動を行っていくのか、生協の強み等、全国の事例を挙げてお話いただきました。講演後は、生協の弱みへの対応や医療・介護の政策について今後の方向性など、様々な質問があり、次回の研究会で気づきや疑問を共有し、自生協の事業と活動に活かせるよう取り組みを進めます。



第3回災害対策委員会(拡大版) 「BCP研修&図上演習」開催

12月10日 第3回兵庫県生協連災害対策委員会が県民会館と会員をオンラインで結んで開催されました。今回は①事業継続計画BCPについて理解を深め、今後の災害対策に活かす②緊急時における情報共有手段としてオンライン等の可能性を探る③県との協定運用を通し緊急時の生協の役割価値について理解を深めることを目的に、拡大版として3部構成でBCP研修&図上演習を行いました。

第1部では事業継続計画(BCP)について、日本生活協同組合連合会 総合マネジメント部 部長スタッフ 岡田 篤氏より「全国生協大規模災害連携計画(BCP)改定と近畿エリアへの影響について」をテーマに講演いただきました。

第2部と第3部では、兵庫県南部明石海峡近辺を震源とするマグニチュード7の大地震発生を想定。発災初日に兵協連災害対策本部を立ち上げ、緊急オンライン会議を招集。会員生協は職員・施設被害状況を兵協連へメール or 口頭報告。兵協連から県・日生協に集約情報を報告する図上演習を行いました。続いて第3部では発災3日目を想定し、協定に基づき県から兵協連に物資供給や医療班派遣が要請され、兵協連から会員生協に連絡。会員から兵協連へ対応可否を報告し県に伝える連携訓練を行いました。災害時における共有ソフト導入や地図・リスト等の提示による効果的な連携の必要性や、行政からの要請に応える際の単位支援物資供給や集約方法の改善課題化など、気づきの多い有意義な演習となりました。



日本生協連合会 総合マネジメント部 岡田 篤氏



災害対策本部を設置して図上演習

テーマ 「過重労働解消のためのセミナー ～働きたくなる、働き方へ。～」

「過重労働」の現状と企業経営に与える影響、知っておくべき労働時間等に関する基準など、長時間労働抑制のために必要な知識やノウハウについて、実際に取り組める事例の紹介などを盛り込み、詳しく解説します。安全衛生を中心に、ストレスチェックについても学びます。

- 「過重労働」の現状と企業経営に与える影響
- 長時間労働対策に必要な「関連法令」
- 事業主などに求められる措置
- 知っておくべき労働時間等に関する基準
- ストレスチェック制度とは
- 実施すべき取り組みと防止対策の具体例
- 陥りがちな違法行為、裁判事例 など

◆日時：2022年2月1日(火) 13:30~15:00

◆会場：オンライン（Zoom）開催

◆講師：福西 綾美 氏

ソフィアステージ社労士事務所代表・産業カウンセラー、
キャリアコンサルタント

◆対象：会員生協・関連会社の役員・職員
※管理監督者及び現場第一線のリーダー層

◆定員：50人（先着順）

◆受講料：無料

◆申込：件名「労働安全衛生研修・学習会」

本文「所属団体名・お名前・連絡先（メールアドレス）」をご記載の上、
メール(hyogo@kobe.coop.or.jp)またはFax:078-392-2059でお申し込みください。
*参加の方にはZoomURLを送付いたします

◆締切：1月20日(木)



2021年度 兵庫県生協連 第4回理事会報告

【開催日時】 2021年12月6日(月) 14:00~15:35

【開催会場】 兵庫県民会館 7階「鶴」

【出席者】 岩山会長理事、末松副会長理事、松岡専務理事、
若生、中野、小谷、池上、菅原、道上、清宮、木田（以上、理事）
金丸、中川寿、中川勝（以上、監事）

● 議決事項 ●

1. (一社) ひょうご大学生支援機構への加入について

● 報告事項 ●

1. 分野別生協・団体（出席理事、監事）からの状況報告について
2. 2021年度上期活動報告・収支状況報告
3. 2021年度上期監事監査実施報告
4. 2022年新春トップセミナーについて
5. ひょうごまるごと健康チャレンジ進捗報告
6. その他 兵協連行事・諸活動報告（10/5~12/6分）
7. 2021年12月~兵協連主要行事スケジュール

協同組合のかけ橋

JF

JF 森・仮屋

～豊かな海を取り戻すために
“かいぼり”を実施～

JF 森・仮屋の漁業者ら約70人が
かいぼり作業に汗を流す

JF 森（森 吉秀組合長）と JF 仮屋（岡田 光司組合長）は、平成20年度から農業者と連携を図り、毎年、近くのため池での“かいぼり”作業を継続して行っています。ため池の堆積土に含まれる窒素やリンなどの栄養を海へ流すことで海に栄養を供給するのはもちろん、貯水量増加や堰堤のメンテナンスのほか外来魚の駆除も行え、農業のみならず防災や環境面の効果でも注目されています。

今年も、10月8日(金)、9日(土)に淡路市釜口の「奈良町池」で行った後、10月22日(金)、23日(土)は同市浦の「一谷池」で行われ、JF 森・仮屋の漁業者や地元農業者ら約70名が作業に汗を流しました。

作業は、池に残った魚を水槽に移したあと、水が抜かれた池の底に溜まった泥を、漁業者らがポンプの放水に併せてジョレンなどの道具を使い手作業で取り除き、栄養を含んだ泥は勢いよく水門から下流へと流れました。

この“かいぼり”の取り組みは、淡路島内に留まらず、播磨地区にも拡がりを見せており、豊かな海を取り戻す運動として期待されています。今後さらなる広がりを見せていくことになるでしょう。



丁寧に手作業で流していきます



山からの砂や泥が堆積していました

JA

JA ハリマ

持続可能な地域農業へ向けて、
地域全体で農業戦略を図る

JA ハリマでは、ブランド米「伊和の里」をはじめとする水稻や黒大豆などの栽培が盛んに行われています。しかし、近年は地区内の高齢化が進み、65歳以上が地域人口の40%以上を占め、農業従事者が年々減少するとともに、耕作放棄地が増加しています。

宍粟市一宮町伊和の岡田浩樹さんは、地域の生産者が耕作できなくなった農地を守り、地域農業に活力をつけたいという思いから、家業を受け継ぎ、3年前に専業農家となりました。所有している農地に加え、耕作が困難となった農地を請け負い、水稻6haをはじめ、黒大豆1ha等を家族とともに栽培しています。

岡田さんが今後の農業経営を行ううえで大きな存在となるのが、JA ハリマ一宮営農経済センターの井口尚洋さんです。井口さんは、購買事業を担当するとともに、営農指導員として水稻や黒大豆の栽培方法の助言や経営計画の相談業務を行います。今年度は岡田さんが、兵庫県が認証する『ひょうご安心ブランド』を取得し、特別栽培米の生産に最も力を入れていることもあり、販売先の確保と販売促進など経営計画を実践するにあたり、積極的にアドバイスを行っています。井口さんは「多様な生産者のニーズに応えていけるよう、JAだけでなく、行政や関係組織と連携して、地域全体で取り組んでいきたい」と話します。

JA ハリマは、持続可能な地域農業を構築するために、JA と生産者が一体となって生産・販売戦略を考え、さらに地域の関係組織と共有することで、新規就農者の育成や生産拡大に取り組んでいます。



収穫前の黒大豆の生育状況を確認する岡田さん(左)と井口さん



4月1日からの 成年年齢引下げに向けて

【成年年齢引下げ】

令和4年4月から民法改正により成年年齢が18歳に引き下げられ、18歳と19歳の若者は「成年」扱いとなり、民法上の未成年者保護の規定（未成年者取消権）が適用されなくなります。

成年になれば、携帯電話の購入や賃貸契約、ローン契約、クレジットカード作成など様々な契約が自分の判断でできるようになりますが、今でも20歳になったとたん消費者被害の件数・金額が約3倍に急増するなど悪質業者に狙われやすい傾向があります。

県では、高校等への出前講座や教員向けの研修、大学生の消費能力向上、若年者向けの動画・チラシの作成等に取り組んでいますが、社会全体で成年年齢引下げについて理解し、若者を守る取組を進めましょう。

○若年者向け啓発動画

「誰もがひっかかる!? 消費者トラブルの実態」

【LINE相談の実施】

近年、SNSの利用増加に伴い、若年層を中心に電話を利用しない傾向が見られます。そこで、誰もが相談しやすい環境整備を図るため、現在、消費者庁と連携し、無料通信アプリ「LINE」を使った消費生活相談の実証実験を行っています。

まずは、相談受付用公式アカウントを友だち登録していただき、気軽にご利用ください。

○期 間 令和3年11月～令和4年1月


○受付時間 火曜から土曜までの16時～20時

【コープこうべとの協働】

県では、今年度、生活協同組合コープこうべとともに、幅広い世代を対象とした消費者啓発に取り組んでいます。

吉本興業の和田ちゃん、市川くんでおなじみのコンビ「女と男」が出演するおもしろくて分かりやすい消費者啓発動画を6本制作（各2分）し、県内に131あるコープこうべ店舗のデジタルサイネージやモニター、店内放送で流すほか、県でもひょうごチャンネルやTwitter、YouTube等で発信します。






ひょうごチャンネルにて動画を公開中

消費生活に関するトラブルについて動画でわかりやすく解説しています。

▶ YouTubeでもご覧いただけます

▼こちらからアクセス!



適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット

ヨッシーの窓



みなさま、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネットの吉江直記です。

2022年4月1日から成年年齢が20才から18才へと引き下げられますね。これからの18才は「法律の知識」特に「契約」のことを知っておくことが大切になってきます。大切だと言いましたが、きっと、実感がわかないと思うのです。実感がないと頭に入ってこないです。そこで、私が経験してきた若い人の契約トラブルをいくつかお話したいと思ひます。まず1つ目。マルチ商法のトラブルです。大学生、新社会人に多いように感じます。マルチ商法の特徴は、友人や知人など、断りにくい人からの勧誘であることです。断りにくいことがやっかいですね。本人は、マルチ商法には関わりたくないと思ひていても、断り切れず、契約をしてしまう、ということです。契約をしたら、きちんと「契約をやめる」ことをしなければなりません。実は、私自身も経験があるのです。19才の頃、高校時代の友人から「久々に会おう」と誘われ、三宮駅付近のマクドナルドで落ち合った後、彼に連れられ、当時、港の近くにあった倉庫街に行ったのです。その中のひとつの倉庫が、倉庫を改装した会員制の飲食やビリヤードなどで遊べる場所だったのです。たくさんの若い人が楽し気に騒いでいました。不思議な空間でした。その友人から、この会員制の仕組み（マルチ）を説明され、それと同時に、私は、多くの人に囲まれ、会員への加入（契約）を迫られたのです。辛いですがね。では2つ目にいきましょう、クレジットカードのトラブルです。この続きは次回へ。

(ひょうご消費者ネット 理事 司法書士 吉江直記)

ひょうご消費者ネット
連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C
TEL: 078-361-7201 E-mail: office@hyogo-c-net.com

MOVE

2021年度ひょうご消費者セミナー（オンライン）

18歳はもう大人

～被害者にも加害者にもならないために～

2022年4月から、成年年齢を引き下げる「民法の一部を改正する法律」が施行されます。今回の法改正では、高校生や大学生でも親の同意がなくても契約ができて、後から取り消すことができないため、消費者被害が増加するのではないか、と心配されています。今回の学習会で、改正の内容や注意すべきことについて学びましょう。



【日 時】2022年2月11日（金・祝）14:00～15:30

【テーマ】「18歳はもう大人 ～被害者にも加害者にもならないために～」

【講 師】大森 節子さん

C・キッズ・ネットワーク理事長 ひょうご消費者ネット理事

NPO法人C・キッズ・ネットワークでは、対象者に合わせたテーマごとの分かりやすい教材を開発して、消費者教育の出前講座を行っています。また、消費者支援功労者表彰内閣府特命担当大臣表彰を受け、内閣府第4次、第5次消費者委員会委員などを務めました。消費者教育を推進するため、日々活動しています。



お申込みはこちらから↑

- ◆参加費:無 料（オンライン開催）
- ◆定 員:150人（先着順）
- ◆申込方法:件名を「消費者セミナー」として、①名前②所属団体③電話番号をご記入いただき、下記アドレスまで必ずメールで送信してください。
送信先: hyogo@kobe.coop.or.jp <兵庫県生活協同組合連合会>
- ◆申込締切:2022年1月28日（金） 申込まれたメールアドレスに参加用のURLを返信します。
パソコンからの受取に制限をかけている場合は、あらかじめ解除ください。
- ◆問合せ先:兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078)391-8634 Fax(078)392-2059
- ◆主 催:ひょうご消費者ネット、消費者支援機構関西、
兵庫県生活協同組合連合会、生活協同組合コープこうべ
- ◆共 催:兵庫県立消費生活総合センター
- ◆後 援:神戸市



県連行事予定

- 1月8日(土) 新春トップセミナー
(県民会館 福/オンライン併用)
- 1月14日(金) 兵協連 第3回 大学生協部会
(県民会館 901)
- 1月21日(金) 兵協連 税務・経理講習会
(オンライン)
- 1月18日(火) 兵協連 第2回
ピースアクション実行委員会
(県民会館 302/オンライン併用)
- 1月24日(月) 兵協連 監事と代表理事懇談会
(県民会館 302)
- 1月26日(水) 兵協連 第4回 生協活動委員会
(県民会館 302)

編集後記

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。今年最初の「兵協連だより」をお届けいたします。

新年特集は会員生協・団体の皆さまの「2022年今年の抱負」です。ご執筆に協力いただいた皆さま、本当にありがとうございます。そして読者の皆さま、どうか最後まで読んでいただき、感想などお寄せいただけたらうれしいです。

皆さまの新年の抱負は何ですか？新たなことを始めるのに絶好の機会です。新しい切っ掛けを声高らかに公言してみよう。そして充実した良い一年にしましょう！

そういう私の新年の抱負は英語力を磨くことです。1月なら初日の出、初夢、初詣、お年玉、書初め、箱根駅伝、鏡餅など、日本の季節の伝統行事を英語で説明できるぐらい、まずは毎日を丁寧に暮らしたいです。

皆さまと会話がつながる、元氣のなる機関紙をお届けしたいと思います。本年も「兵協連だより」をどうぞよろしくお願いたします。

(吉本)